

平成28年12月3日

北海道歯科医師会
会長 藤田 一雄 様

女性歯科医師サポート臨時委員会
委員長 中村 かほる

答 申 書

平成27年12月8日付北歯発第818号をもって諮問のあった事項〔一、女性歯科医師のサポート体制について〕について下記のとおり答申します。

記

本臨時委員会は北海道歯科医師会からの諮問を受け、平成27年12月から4回にわたる臨時委員会を開催し、答申内容について協議を行った。協議にあたり、日本歯科医師会女性歯科医師の活躍検討ワーキンググループによる「女性歯科医師の活躍のための環境整備等に関する調査報告」等で実施されたアンケート結果を元に、各委員からの意見を集約し、結婚・妊娠・出産・育児などのライフイベントの最中にある女性歯科医師の現状と、必要とされているキャリアサポートや研修を含めた復職・就業継続支援等について以下のことを答申する。

1) 女性歯科医師の入会促進について

北海道歯科医師会が実施する女性歯科医師サポート対策という観点を考慮すると、さらなる女性歯科医師の入会促進が必要であると考えます。

北海道歯科女医会としてもかねてから要望している事項であるが、離職した会員に対する会費の減額や、夫婦ともに歯科医師である場合の一方の会費の減額など、会費制度等の整備、再構築が求められる。

2) 就業継続とキャリア形成のための体制の整備

女性歯科医師の歯科医業離職経験の有無は、子どもの有無で明らかな差がみられることから、産休・育休の取得をはじめとして、フレキシブルな勤務体制など、子育てをしながら就業を継続できる環境づくりが求められている。

また、女性歯科医師の活躍を推進するためには保育施設の拡充が不可欠であり、国の施策としても推進されているが、大規模歯科診療所における保育施設の設置や補助等が望まれる。女性ならではの困難の経験として妊娠・出産と育児を挙げる者が多く、

その解決策としては家族の協力を頼るところが大きいことから、家族の協力が得にくい女性歯科医師が就業を継続するためには保育施設の拡充が求められる。

さらに、子育て中の女性歯科医師は学会や研修会に出席しにくいという事情を考慮し、本年8月に開催された第69回北海道歯科学術大会において託児室を設置したところ延べ11名の利用があり、女性歯科医師の就業継続とキャリア形成の一助として大きな一歩を踏み出したと考える。今後は、さらに女性歯科医師へのニーズが高い領域の研鑽のためにも学会や歯科医師会の講演会等における託児室等の併設の積極的な推進と、面積が広大で人口密度の低い本道の地域性を鑑み、在宅でも研修可能なEラーニングの活用等の整備が必要である。

3) 出産・育児等で歯科医業を中断・離職した女性歯科医師に対する復職支援の充実

日本歯科医師会の調査では、多様なキャリアの選択肢の提示や復職支援のための研修、人材（就業支援）バンクの設置等の要望が多かった。復職に関して気軽に相談でき、有用な情報が得られるような相談窓口を郡市区歯科医師会等に設置することが望まれる。

これは、女性ばかりでなく病気や介護等で短期間を含めて休業・離職を余儀なくされた男性歯科医師の支援にもつながるものと考えられる。

4) 日本歯科医師会の考え方に基づくサポート体制の拡充

日本歯科医師会新執行部では、すでに「女性歯科医師の支援に関する具体策—日本歯科医師会の現時点の考え方」を示している。執行部が検討している就業支援サイト案は、日歯ホームページ内に設置するもので、ページ内は都道府県歯科医師会が自由に構成できるようにする。就業希望者が掲載された当該医療機関に直接連絡し、話し合ってもらおうというもの。生涯研修の拡充については、より実践的な最新の情報や先端技術を含めた研修メニューを検討している。さらに都道府県歯科医師会、郡市区歯科医師会、歯科大学などと情報を共有し、情報発信に努める。検討課題として、学会や研修会に参加するための託児施設利用者への補助、託児サービス会社との契約に基づく支援を挙げている。これら日本歯科医師会の提案を受けて、今後道歯としてもさらに女性歯科医師の支援を拡げ、充実したものにすることが望まれる。

5) 具体案について

今後は、インターネットによる情報発信が不可欠であるため、ホームページの充実が重要である。例えばホームページ内に会員向け、非会員向けそれぞれに対する女性歯科医師サポートのコーナーを設置する。その中では、託児施設のある職場を紹介する（例えば、北大、札医大、医療大、手稲溪仁会病院など。託児施設のある病院、歯科医院があれば知らせてもらうアナウンスも必要）。

また、各世代の先輩女性歯科医師による子育ての苦労や経験談を載せて、参考にしてもらおう。講習会や学術大会で託児室を設置する場合は、いち早くお知らせする。

以前の託児コーナーを写真付きで紹介する。

道歯会館で講習会を開催する際は、必要な場合は、託児室を設置する。例えば和室などを利用し、託児サービス会社に依頼をする。

可能であれば、女性歯科医師向けの講演会を開催する。

以上のような対策を検討していくことが必要と考えられる。

○終わりに

近年、女性歯科医師数は年々増加している。厚労省の平成26年歯科医師調査では、全国の女性歯科医師が占める割合は30歳代で全体の34%、29歳以下では44%を占めている現状である。また、平成27年度の全国歯学部入学者のうち44%は女性であるという結果が出ている。今後もこの傾向が続くと考えられ、女性歯科医師が活躍できるための基盤が必要となっている。

一方、歯科医師として研鑽を積み始める時期は、女性歯科医師にとって結婚、出産、育児等のライフイベントと重なることが多く、一時的に離職せざるを得ない場合も少なくない。

医科においては、約10年前より、女性医師支援を重要な課題として取り組んでおり、短時間勤務制度を含めた就労継続支援や復職支援、育児支援、介護支援等きめ細やかな女性医師支援対策が講じられており、キャリア形成を支援している。

北海道医師会においても女性医師に対する相談窓口があり、ホームページ上でも「女性医師等支援相談窓口」を設置し、手厚い支援基盤となっている。

我が北海道歯科医師会においても、今回、女性歯科医師サポート臨時委員会を立ち上げたことを一つの機会として、これで終わることなく、今後も継続して女性歯科医師支援対策を講じることが必要であると考えられる。女性歯科医師の増加が顕著になっているにもかかわらず、歯科医師会への加入率は平成26年で男性の97.3%に対し女性は25%に留まっており、このことが歯科医師会の組織率低下の一つの要因となっていることをみても、女性歯科医師の活躍のための支援は急務であり、重要課題の一つであるといえる。

歯科医師会、大学、同窓会、学会等の団体が連携して各組織の機能に応じた役割分担の下に進めていくことができれば、さらに充実した支援となるであろう。

本答申は委員会のほか、活発なメーリングリストによる協議を通して取りまとめましたが、今回、この委員会を立ち上げ活動を支えて下さった藤田一雄会長、長江俊一副会長、大西良近専務理事、事務局関係各位に心より深く感謝申し上げます。

○ 委員会開催状況

平成27年12月 8日 27年度第1回委員会

平成28年 3月14日 27年度第2回委員会

平成28年 6月14日 28年度第1回委員会

平成28年12月 2日 28年度第2回委員会

○ 委員会委員

委員長

中 村 かほる

副委員長

青 森 佳寿子

委員

菊 地 みち子

三 浦 佐和子

今 井 香

坂 東 吟 子

伴 宰 子

中 井 裕 美

田 中 佐 織

大 友 麻衣子